

インドネシアの大学×日本企業・行政団体・学校

産官学オンライン交流会 議事録

名 称： インドネシアの大学×日本企業・行政団体・学校 産官学オンライン交流会
開 催 日 時： 2022年7月12日（火）16:00～受付開始 16:30～開演 18:40迄
開 催 場 所： オンライン開催（ZOOM 使用）
主 催： 学校法人エール学園・インドネシア総合研究所
共 催： 留学生支援コンソーシアム大阪/アジアビジネス創出プラットフォーム人材育成プロジェクト
clubhouse グローバル共和国 / 森興産株式会社 (WA. SA. Bi.)
後 援： 関西経済連合会 / 公益財団法人 大阪観光局 / JETRO 大阪本部 / 近畿経済産業局
大阪商工会議所 / 大阪府

司会：森興産株式会社 代表取締役 森 隼人氏

<<第一部 成果発表会>>

16:30-16:40	主催挨拶	<p>学校法人エール学園 総長 長谷川恵一氏</p> <p>「インドネシアと日本との交流は、1958年1月20日に日インドネシア平和条約に署名し、国交が樹立されてから64年を迎え、経済政治のみならず、社会や文化といったさまざまな分野で協力を強化している。</p> <p>エール学園では、留学生の就職環境を整えるため、産官学の交流を実施している。国際人材活用ネットワーク交流会という名称で、産業界からは230社の企業、官からは20団体、学からは、エール学園の留学生だけではなく、他の専門学校、大学からも留学生が参加され、活発な交流が実施されている。当学園では、就職が100パーセントを、今も毎年維持しており、企業も外国人雇用に理解を示してくれている。これらの対策で、インドネシア人留学生の雇用も拡大していくものと信じている。」</p> <p>インドネシア総合研究所 代表取締役 アルベルトウス プラセティオ ヘルヌグロホ氏</p> <p>「インドネシア総合研究所は2011年インドネシア共和国投資調整局の依頼によって設立された会社である。事業については、人・モノ・金の3つをみている。2020年コロナ禍に入り、2022年はロシアとウクライナの情勢が悪化。不安定、不確実性、複雑性、不安という時代に突入している。このような世界情勢の中で表面的な付き合いだけではなく、もっと本質的なことをしないといけない。今回だけではなく、第2弾第3弾と開催し、大学と大学、大学と産業で結ぶことができればと考えている。」</p>
16:40-16:50	共催紹介・挨拶	<p>関西経済連合会アジアビジネス創出 (ABC) プラットフォーム人材育成活用プロジェクト プロジェクトマネージャー 萩原 大作氏</p>

		<p>「インドネシアは日本語学習者の多い国である。2018年の調査では、世界の日本語学習者が約380万人いる中で、70万9000人もの学習者をインドネシアが占めており、中国に次いで2位の学習者であった。我々の立場から言えば、今後、関西日本の経済発展の重要な鍵になる人材が多くいるということで、今後の双方向の経済交流が、両国に大きなメリットをもたらす可能性があることだと思っている。ABCプラットフォーム人材育成活用部会の目標は多くの中核人材となるべき人材を生かしつつ、両国の経済発展に寄与することだと考えている。また、同時にそれぞれのニーズに沿って、バランスの取れた人材の交流に努めていくことも大切である。本日の交流会は、まさにインドネシア人材を日本企業の中核人材として受け入れ、両国の懸け橋となって、インドネシアの経済発展に寄与するという趣旨に沿った交流会である。</p> <p>ぜひ、この交流会の発展形として、具体的な連携関係ができることを期待している。」</p>
16:50-16:55	日本側後援 団体紹介	関西経済連合会 / 公益財団法人 大阪観光局 / JETRO 大阪本部 / 近畿経済産業局 大阪商工会議所 / 大阪府
16:55-17:15	インドネシア 来賓・参加大学の 紹介・挨拶等 来賓代表挨拶	<p>インドネシア総合研究所副社長デンディ氏よりご紹介 <i>Parahyangan University (UNPAR)</i> (パラハンガン大学) 学長 ご挨拶 インドネシアと日本の関係を強めたいと考えている。安倍元首相の訃報についてお悔やみ申し上げます。本学には約1万1000人の学生と、1000人の教職員がいる、また大学の格付けも高い。このリソースを使い、教育分野、研究分野、社会貢献分野などでぜひ協力を築いていきたいと思っている。</p> <p><i>Sangga Buana University</i> (サンガブアナ大学) 副学長 ご挨拶 本学は3つの学部から成り、大学院と職業訓練があり、学生は5000人ほど在席している。皆さんとこれから勉強をし、バンドン市内の産業や会社とマッチングできればと思っている。このフォーラムは第2回、第3回も開催し、その後もっと具体的なアクションプランができると考えている。</p> <p><i>Airlangga University (UNAIR)</i> (アーランガ大学) アントニウス部長 ご挨拶 スラバヤにある大学、人々も学生・卒業生も温かい。大阪と交流もある。</p> <p><i>Bakti Asih University</i> (バクティアシー大学) 第三副学長 ご挨拶 このフォーラムで日本の素晴らしい技術を学ばせていただきたい。3年制の短大（健康分野の解析）と4年制の大学（化学の分析）がある。食産業の中で解析をしたり、水の分析をしている。今回のフォーラムで教員同士の交流や学生の交流、インターンシップなどできればと考えている。</p>
17:15-17:20	インドネシア 企業の紹介 ・挨拶	<p>ミンナーインドウジャパンリソース 社長 ダニー氏 挨拶 冒頭に人モノ金の話があったが、私どもは物に携わっている。インドネシアと日本はこれから協力関係を強めていけたらと思っている。</p>

17:20-17:30	産官学の取組 大阪・関西万博 留学生 EXPO など	<p>音声SNSclubhouse グローバル共和国 日本代表 大田 勉氏</p> <p>日本最大のコミュニティでスタートして我々が目的としていることは、人と企業と地域をグローバルに繋げ、SNSだけではなくリアルにも繋がること。先日は四国の宇和島をお伺いし、移住定住を目指す取り組みの連携を、市長を始め、担当の方々と開始した。西村氏とは、グローバルビジネスや製造業で活動し、宇宙ビジネス、地域創生、日本語学習者の kindle 出版を応援するなど、まずはオンラインでそしてリアルに出会い、日本と海外の絆を繋げる活動をしている。</p> <p>学校法人エール学園 キャリア支援本部 本部長 西村 康司</p> <p>日本企業 50 社集める予定が 100 社集まりました。私たちは、産官学の繋がりを大切にしており、毎年 12 月に 250 社以上集まる交流会をしている。インドネシアの皆様とも具体的に連携できる関係を作っていきたい。</p> <p>【提案 1】 この交流会を毎年開催したい。2025 年には関西万博が開催される、3 年後に開催される国際博覧会の会場は大阪である。日本語を勉強している皆様や、日本語教育に関わっている皆様にはぜひ来ていただきたい。</p> <p>【提案 2】 音声 SNS clubhouse のアプリをダウンロードし、関西万博のルームで仲間づくりを。</p> <p>【提案 3】 大阪の大学の日本語教育の皆様には私たち関西経済連合会がプロジェクトを掲げている ABC プラットフォームのメンバーに入っていきたい。2 ヶ月に 1 回のミーティングにも入っていきたい。</p>
17:30-17:40	通訳の紹介	<p>チェシさん (エール学園)</p> <p>リフェさん (エール学園)</p> <p>アンニサさん (大阪大学大学院)</p>
17:40-17:45	写真撮影	

<< 第二部 交流会 >>

17:50-18:30	ブレイクアウト セッション	
18:30-18:40	振り返り	<p>ルーム 1 丸進運輸株式会社 半田 祐也様</p> <p>自己紹介に時間がかかり、インドネシアの内情をもっと聞きたかった。日本に来たい方が増えているので、送り出し機関が増えている。</p> <p>ルーム 2 フィリップス美穂 様</p> <p>自己紹介で終わってしまったので、次回はチャットに自己紹介を貼っておくといいかもしれない。</p> <p>ルーム 3 熊本 YMCA 学院 中村賢次郎様</p> <p>自己紹介をしながら、これから期待することなどを聞いていった。日本の技術を学び、今後のイノベーションに繋がるような、日本とインドネシアの協力で新たなものが生まれるのではないかと期待される。情報交換、学生の交流、企業間交</p>

		<p>流、企業と大学の交流など、実際に仕事として関係を結ぶことができたらいという話もたくさんでた。インドネシアの若い人材が来日し、学んだり、仕事をしたり、そういう機会もどんどん広げてほしい。これから伸びる分野の情報のやりとりをできるといいのではないかな。</p> <p>ルーム4 やまごころキャリア 松島敏幸様 自己紹介中心になったが、実際にインドネシアとビジネスをしているなど、繋がり深い方が多い印象だった。</p> <p>ルーム5 株式会社 Blessing 坪井 恵様 日本語の上手な学生さんが多く、通訳さんも素晴らしく、日本企業側も連携がとれており、自己紹介と学生さんに対する質問などがしっかりでき、チームワークのとれたルームだった。日本のお祭りに心惹かれて日本で就職をしたい、日本で暮らしたいという学生さんがいらっしや、日本の和の文化はそれほどまで心に響くものなのだということがわかった時間であった。</p> <p>インドネシア総研アルビー氏 総括 やはりインドネシアと日本がこれから世界には欠かせないものだと思う。インドネシア総研は投資調整局の依頼で作られた会社なので、これまでお金に関することをやってきた。インドネシアで起業したいが、銀行が担保がないといけなとか、エンジェルさんを紹介したり、インキュベーションでやっていたり。今回の大学さんはインキュベーションセンターの話があったが、人材不足など、大学も投資もできるなどということもあり、学生を送っていきたい。人材系の会社さんもかなりいらっしやったようなので、大学と直接連携していただけたら一番いいかと思う。2012年にはクールジャパン戦略をやらせていただいたが、今必要なものは「クール」ではなく「ディープ」である。大学の学長さんと話していると色々ディープに言われたりする。皆さんも、ストーリーを発信できれば、インドネシアにプレゼンできると思う。今回、自己紹介だけで終わったしまったというルームもあるが、ご縁という意味ではこれからの発展になればいい。2025年関西万博にみなさんと何かできればと思う。</p>
18 : 40-	閉会の挨拶	<p>関西経済連合会 アジアビジネス創出プラットフォーム室 室長 牛場克彦様 今回は東南アジアにおいて、最大の人口を持ち、高い成長性を有するインドネシアを代表する大学、研究機関、企業との交流で、日本企業の方々のご関心も、非常に高いイベントであったかと思う。ABCプラットフォーム人材育成活用部会では、アジアの中核人材の育成活躍を応援しており、その活動を通じて、本日皆さんにご紹介したような優秀な学生の方々と、交流機会をもっとご提供していければ良いなと思っている。本日のイベントを通じて、インドネシアの学生さんと企業、日本企業との新たな出会いが生まれ、具体的なマッチングに進んでいくことを期待している。</p> <p>また、本日のイベントを通じて得られたネットワークや情報をご参加の各企業、学生の方々に有益なものであれば、大変嬉しく思う。</p>

